



創立 40 周年記念大会 ご挨拶

本日ここに 長岡市長 磯田達伸様 をはじめ多くのご来賓のご臨席を賜り、長岡市建築設計協同組合創立 40 周年記念式典を挙行できたことに中心より感謝いたします。

弊組合は昭和 60 年 1985 年 1 月に新潟県知事より設立認可を受け、第一歩を踏み出しました。

設立当初より本日に至るまで、長岡市ご当局並びに関係団体、友好団体各位には、ご支援ご協力をいただいたことに改めて御礼申し上げます。

弊組合は当時の日浦晴三郎 長岡市長のご指導のもと、市内公共建築物整備の一役を担ってまいりました。

長岡市は 1945 年の大戦で市街地の大半が戦火に包まれ、大惨事からの慰霊復興を歩んできました。

戦後の満足のない物資もない中での再建は、大変な苦労だったと頭の下がる思いです。それから 40 年後に組合は設立され、当時は戦前戦後建設された老朽化した建築物を

堅牢な建物への改築、及び中長期を見据えた、まちづくり計画の中での、公共施設の充実整備、並びに都市の不燃化が大きな命題だったように思われます。

その後40年が過ぎ、戦後80年を迎えた今日では、建築設計に求められるリクエストも変化してきました。

1995年に発生した阪神淡路大震災、2004年に発生した新潟県中越地震以降、既存建物の耐震化が進み、長岡市内の公共建築物の耐震化率は100%となりました。

弊組合としましても、耐震診断、耐震改修設計の面で安心安全な、公共建築物づくりに市民貢献ができたものと思っています。

しかし現在では、災害時の一時避難施設としての在り方も変わってきています。

ただ単に雨つゆをしのぐだけのシェルターではなく、生活再建のめどがたつまで、少しでも不自由さを補えるかが課題として求められてきています。

折しも東南海地震への注意喚起も呼びかけられ、早い地震発生周期では約80年・90年周期に発生していると聞きます。まさに今現在は昭和東南海地震から81年目に当たります。

またカーボニュートラルが叫ばれている昨今、地球環境に配慮した、建物づくりのもと、スクラップアンドビルドから長寿命化、高耐久化、省エネ化、再生化とダイバーシティとしてのリクエストは、年々レベルアップしてきています。

また再生可能エネルギーの利用は社会問題として、環境との共生が大きなテーマになってきています。

そして設計初期段階では、建物利用者とのワークショップは、子供から大人まで、広く利用者の声を反映する、ものづくりとして、今では当たり前の手法となり、広く取り入れられ、利用者と設計者が互いに手を取り合いながら、作り上げていくようになってきています。

弊組合は地元気候風土を熟知し、創立以来40年の技術構築、経験をもとに今後とも技術研鑽をつみ、社会貢献になくてはならない組織として、さらなる努力を続けてまいります。

またスマートシティーとしての将来に向けて、市民が安心安全快適に暮らせる町づくりに、少しでも貢献できる一員であり続けたいと思います。

最後になりますが、百人一首にある紫式部の歌に

「めぐり逢いて 見しやそれとも わかぬ間に 雲隠れにし 夜半の月かな」
という歌があります。

「久しぶりのあなたと会えて、とてもうれしかったのに、時間が幻のように過ぎてしまった。もっと一緒にいたかった」という意味だそうです。その意味のように、本日はご臨席の皆様方とのご縁を大切に、これからも変わらぬご支援ご指導を賜りますようお願いいたしまして、式辞といたします。

令和7年1月25日 長岡市建築設計協同組合 理事長 鈴木 靖